

グローバルCOEプログラム
境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界

2009年度 後期
道民カレッジ連携講座

土曜市民セミナー 共催



北海道大学総合博物館

北海道大学スラブ研究センター

講師

工藤 信彦

(社団法人全国樺太連盟理事)

樺太とは何だったのだろう。
樺太の悲劇は、一冊の通史も無いことだけでなく、島で生まれ育った私にさえも樺太が見えないということである。戦後六十余年が経つ現在、樺太をトータルに語り得る人は、もう何処にも居ない。知らない人は、故郷としての樺太を語ることは無い。故郷は知識ではない。一人一人の記憶が樺太。浮遊とは記憶のことである。波が海表情でしかないように、記憶だけが、北限の岸辺なき海に漂っている。



シリーズ「知られざる北の国境」第4回

日時

2月6日(土)
午後1時30分より

会場

北海道大学総合博物館 1階
「知の交流」コーナー

入場無料 | 事前申込不要 | 定員60名

*定員を超えますと立ち見となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

題字：工藤信彦

本セミナーに関するお問い合わせ先



北海道大学スラブ研究センター「境界研究の拠点形成」事務局
tel: 011-706-3314 mail: gcoe-jimu@slav.hokudai.ac.jp
http://borderstudies.jp

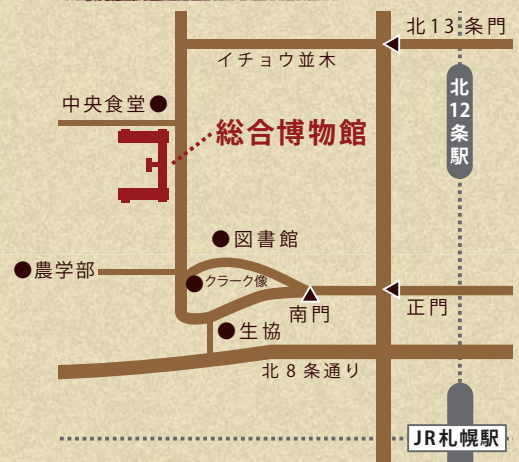
北海道大学総合博物館

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 tel.011-706-2658/3607
http://www.museum.hokudai.ac.jp/activity/seminar



THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM

アクセスマップ



博物館からのお知らせ

12月18日より、総合博物館2階に日露国境標石をはじめとする北の境界にかかわる資料を展示いたします。どうぞお立ち寄りください。

